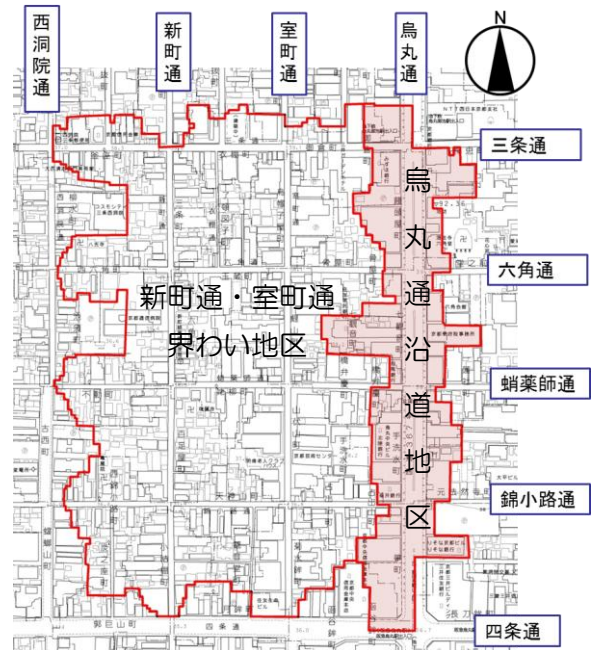


(1) 地域の概要

明倫元学区地区は、四条烏丸の北西部に位置する面積約 22.2ha の地区であり、多様な都市機能の集積を図る都心部に当たります。祇園祭に多くの山や鉦を出す地域であり、近世以来の自治の気風、和装などの商いや伝統的な町並みを伝え、商いと共存しながら多くの住民が暮らしています。また、地区内を通る烏丸通沿道には、銀行や企業の本社等が立地しています。

当地区では、平成13年4月に「明倫自治連合会まちづくり委員会」が設立され、積極的なまちづくりの取組が進められ、平成19年3月に「まちづくりビジョン」が策定されました。

京都市では、平成18年7月に当地区の地区計画の目標・方針を都市計画決定し、平成20年1月に烏丸通沿道地区について、平成24年11月に新町通・室町通界わい地区について、それぞれ地区整備計画を策定し、建築物の用途の制限を定めています。



(2) 地域の将来像

① まちづくりの理念・基本的な考え方

京都の都心部に位置する商業・業務の中心地であるとともに、わが国三大祭の一つである祇園祭を伝える地域であり、また、室町時代以来の町衆によって形成された自治の気風や文化・芸術に親しむ心が今に伝わり、商いと共存しながら多くの人々が住まう地域です。

当地区においては、明倫自治連合会を中心に、「祇園祭を受け継ぐ風格のあるまち、商いと暮らしが響き合うまち、安全で安心なまち 明倫」の実現を目指したまちづくりを進めていきます。

② 地域の目標・将来像

「地域に愛着と誇りを持ち、文化が薫るまちの個性と魅力を高める」、「商いと住まいの共存を図り、風格のある美しいまちなみをつくる」、「だれもが安全・安心に暮らせ、交流豊かなコミュニティをつくる」の実現に向け、地域のまちづくりに取り組みます。

土地利用については、都心部に位置する商業・業務地として、また、歴史と伝統文化が息づくまちとして、明倫にふさわしい商いの継承・発展や商いと住まいの共存を図り、誰もが安心・安全で美しく魅力的な市街地をつくることを方針とします。

また、建築物等の整備については、風格のある美しいまちなみの形成を図るため、建築物・工作物等については、周辺の町並み景観と調和する質の高い形態又は色彩その他の意匠とすることを方針とします。

(3) 地域のまちづくりの方針

明倫元学区地区では、以下の方針に沿って新たな建築計画が円滑に進むよう、地域の自治を担う明倫自治連合会と住民等が連携し、建築を行う事業者と協議・調整を行っていきます。

○ 新町通・室町通界わい地区について

- ・ 伝統的なまちなみ景観と調和した市街地の形成を図ります。
- ・ 京都の歴史・文化を受け継ぎ、住み続けられる、落ち着いた居住環境を保全するため、建築物の用途を制限します。
- ・ 京町家や歴史的な建築物等からなる周辺の町並み景観と調和のとれた建築物等の誘導を図ります。
- ・ 店舗・事務所等の低層階においては、通りの特性に配慮した用途や景観の誘導を図ります。
- ・ 住民の生活上の安全性と快適性を確保します。

○ 烏丸通沿道地区について

- ・ 地域の住環境及び業務環境の維持に配慮しながら、京都の中心的な商業・業務地としてふさわしい良質な商業・業務機能の集積を図るとともに駐輪場の適正な配置に努めます。
- ・ 烏丸通に面する共同住宅の建築を抑制し、低層階を通りの特性に配慮した用途や景観を誘導します。
- ・ 歴史ある洋風建築物と高層建築物との調和に配慮するとともに、統一感のある質の高い美しいまちなみの形成を図ります。